



新型スイフト

2024年3月期 第3四半期決算説明会

2024年2月7日
スズキ株式会社

(参考) 表紙画像：新型スイフト

- ・「エネルギー×軽やか 日常の移動を遊びに変える洗練されたスマートコンパクト」がコンセプト
- ・歴代のスイフトで培ってきたデザイン性や走行性能に加え、安全装備や利便性の高い装備が充実
- ・スイフトの魅力であるデザインと走りに「クルマと日常を愉しめる」という新たな価値が加わった、進化した新型小型乗用車

サマリー	3
株主還元	4
2024年3月期 第3四半期決算	5～15
総括	5
四半期推移	6
営業利益増減要因	7
事業別セグメント	8
四輪・二輪台数実績	9～14
マリン事業	15
通期業績予想	16～20
総括	16
営業利益増減要因	17～18
四輪・二輪台数情報	19～20
トピックス	21
(補足資料)	22～33

第3四半期決算

- 4-12月累計
 - ・ 為替影響に加え、半導体不足影響の解消やコストに見合った適正な販価設定等の取組みにより、売上高・各利益とも過去最高
 - ・ また、10-12月期についても、売上高・各利益とも過去最高

通期予想

- 通期予想
 - ・ 売上高5兆2,000億円、営業利益4,300億円、前回予想（11月時点）を据え置き
 - ・ 売上高・各利益とも過去最高
 - ・ 為替前提・原材料価格・台数見通しについて、最新の経営環境を反映
- 1-3月期の見通し
 - ・ 当10-12月期に対して、研究開発費の増加（将来への種まき）等により減益となる見通し

2024年3月期第3四半期決算のサマリーをご説明いたします。

4-12月累計は、
為替影響に加え、
半導体不足影響の解消やコストに見合った適正な販価設定等の取組みにより、
売上高・各利益とも過去最高となりました。

10-12月期につきましても、
10-12月期として売上高・各利益とも過去最高となりました。

通期予想につきましては、
売上高5兆2,000億円、営業利益4,300億円、前回予想を据え置きます。
為替前提・原材料価格・台数見通しについて、
最新の経営環境を反映した結果、業績見通しは据え置きとなりました。
なお、1-3月期の見通しにつきましては、
10-12月期に対して、
研究開発費の増加、および為替前提が円高となっていること等により、
減益となる見通しです。

・株主還元は、重要な経営課題の一つであり、
継続的かつ安定的な配当を方針とし、総還元性向の向上を検討していく

■ 配当

- ・年間配当（予想）は、1株当り110円（前期から10円増配）
- ・期末配当は前期から5円増配となる1株当り55円

■ 自己株式取得

- ・上期に200億円（還元性向8.3%）を実施
総還元性向（配当＋自己株式取得）30.5%

（ご参考）

- ・株式分割の実施を決定（2024年3月末を基準日として4分割）
- ・株価について現在の水準および今後の見通しを踏まえ、
個人投資家の皆様に購入していただきやすい投資単位とする狙い

最後に、株主還元についてご説明いたします。

配当につきましては、継続的かつ安定的な配当を方針としています。

その方針を踏まえ、

年間配当は、前期から10円増配となる、

1株当り110円とさせていただきます。

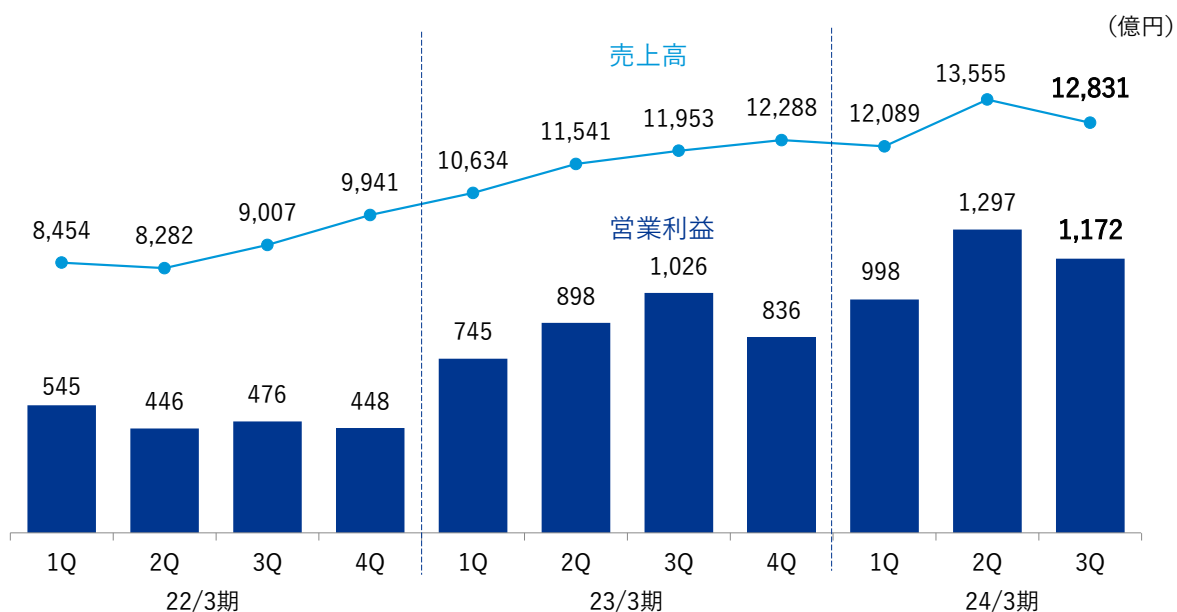
(億円)		当期 ('23/4-12)	前年同期 ('22/4-12)	増 減		補足 ^{※1}
					増減率	
連結 業績	売上高	38,475	34,128	+4,347	+12.7%	過去最高、3期連続増収
	営業利益 (利益率)	3,466 (9.0%)	2,670 (7.8%)	+797	+29.8%	過去最高、3期連続増益
	経常利益 (利益率)	3,607 (9.4%)	2,986 (8.7%)	+622	+20.8%	過去最高、3期連続増益
	四半期純利益 ^{※2} (利益率)	1,981 (5.1%)	1,834 (5.4%)	+147	+8.0%	過去最高、3期連続増益
為替 レート	米ドル	143円	137円	+7円	+5.0%	
	ユーロ	155円	141円	+15円	+10.4%	
	インドルピー	1.74円	1.72円	+0.02円	+1.2%	
世界 販売	四輪車	2,283千台	2,210千台	+73千台	+3.3%	
	二輪車	1,445千台	1,420千台	+25千台	+1.7%	

※1 補足のコメントは第3四半期累計としての評価

※2 四半期純利益は親会社株主に帰属する四半期純利益

4月から12月までの、9ヶ月累計の実績について、ご説明します。

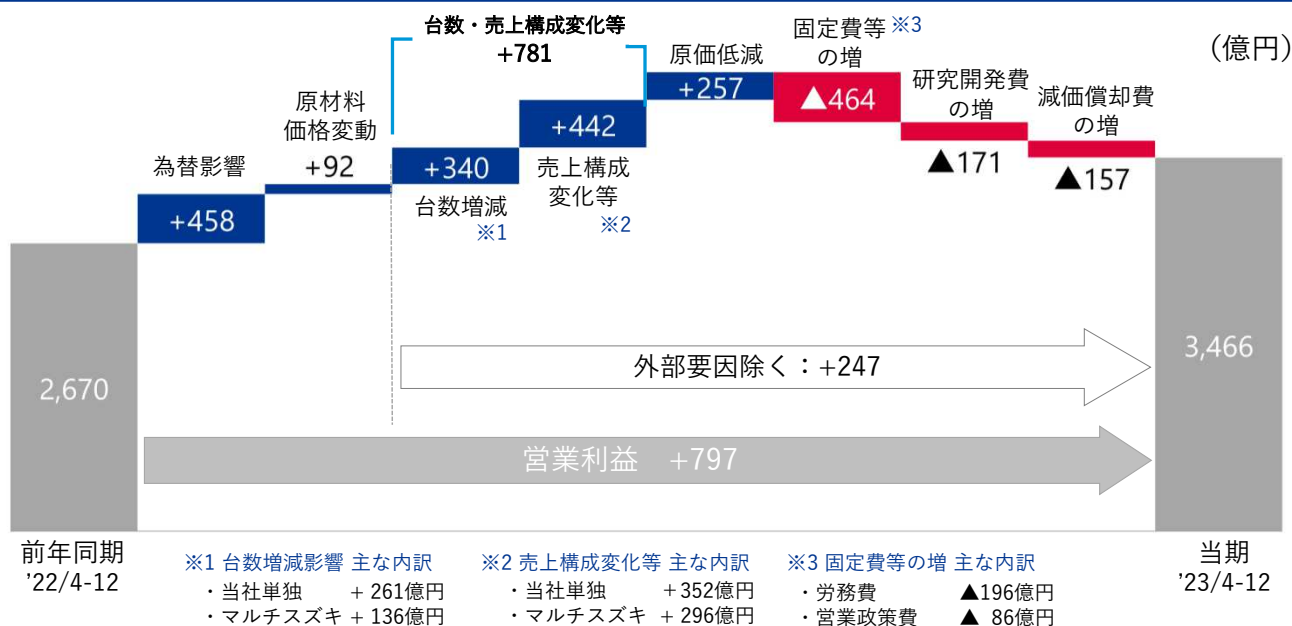
業績はご覧の通り、
売上高、各利益とも、過去最高となりました。



© Suzuki Motor Corporation, 2024. All rights reserved.

四半期毎の業績について、ご説明します。

当10-12月期の実績は、
 前年同期に対して増収増益となり、
 売上高、営業利益とも、10-12月期として過去最高となりました。



※1 台数増減影響 主な内訳
 ・当社単独 + 261億円
 ・マルチスズキ + 136億円

※2 売上構成変化等 主な内訳
 ・当社単独 + 352億円
 ・マルチスズキ + 296億円

※3 固定費等の増 主な内訳
 ・労務費 ▲196億円
 ・営業政策費 ▲ 86億円
 ・品質関連費用 + 39億円

9ヵ月累計の、前年同期と比較した営業利益の増減要因はご覧の通りです。

外部要因としては、

- ・ 為替影響で458億円の増益、
- ・ 原材料価格変動については貴金属価格の低下等により92億円の増益となりました。

外部要因を除く項目では、増益要因として、

- ・ 台数増減で 340億円
- ・ 売上構成変化等で 442億円
- ・ 原価低減により 257億円

の増益となりました。

減益要因としては、

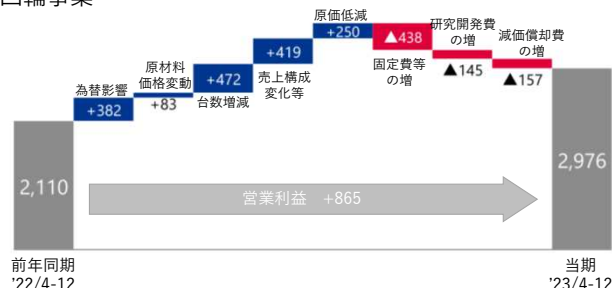
- ・ 固定費等の増により 464億円
- ・ 研究開発費の増により 171億円
- ・ 減価償却費の増により 157億円

の減益となりました。

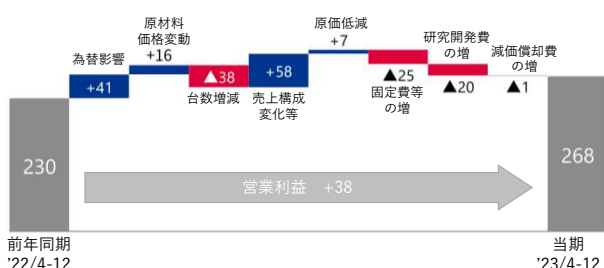
単位：億円

	'23/4-12				'23/10-12					
	売上高		営業利益		売上高		営業利益			
	前年比	前年比	前年比	利益率	前年比	前年比	利益率			
四輪	34,871	+14%	2,976	+41%	8.5%	11,692	+8%	1,004	+21%	8.6%
二輪	2,676	+6%	268	+17%	10.0%	879	+14%	106	+38%	12.1%
マリン	843	▲17%	199	▲35%	23.6%	230	▲30%	53	▲52%	23.0%
その他	85	▲6%	24	+12%	28.7%	30	▲9%	9	▲2%	30.1%
連結計	38,475	+13%	3,466	+30%	9.0%	12,831	+7%	1,172	+14%	9.1%

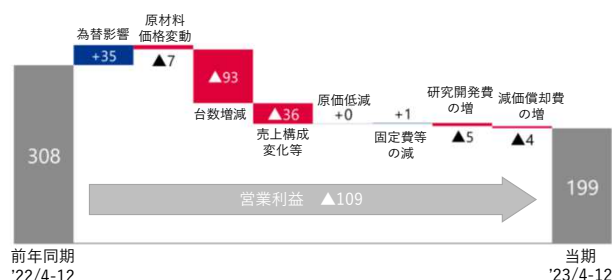
四輪事業



二輪事業



マリン事業



© Suzuki Motor Corporation, 2024. All rights reserved.

次に事業別の業績についてご説明いたします。

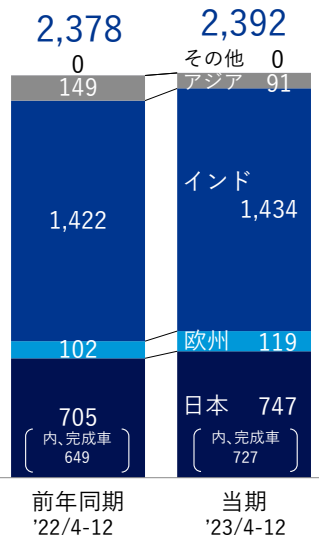
四輪事業につきましては、
台数増加や売上構成変化等の改善により、増収増益となりました。

二輪事業につきましては、増収増益となりました。
営業利益率は10.0%と高水準となりました。

マリン事業につきましては、
北米市場の減速に伴い、減収減益となりました。

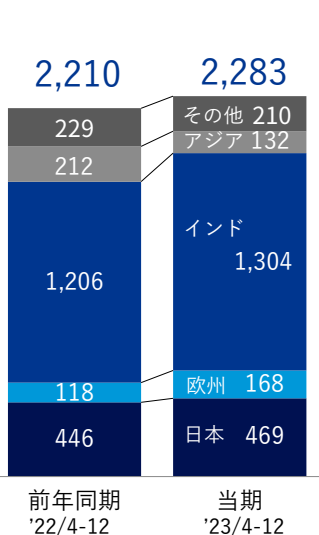
生産実績

+15千台 (+0.6%)
(千台)



販売実績

+73千台 (+3.3%)
(千台)



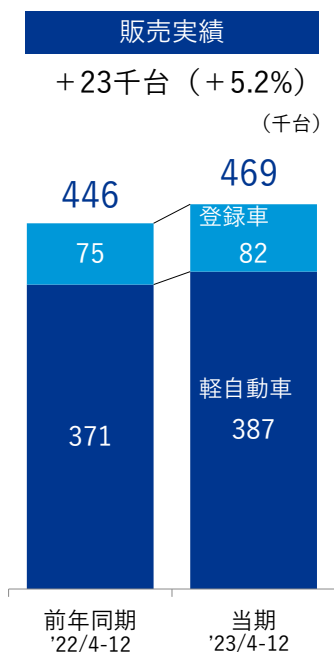
● **当期の世界販売**

(千台)	台数	前年同期比	
世界販売	2,283	+73	+3.3%
日本	469	+23	+5.2%
欧州	168	+50	+42.6%
インド	1,304	+98	+8.1%
アジア (除インド)	132	▲80	▲37.8%
パキスタン	29	▲60	▲67.0%
インドネシア	60	▲8	▲12.1%
タイ	9	▲5	▲38.0%
その他	210	▲19	▲8.1%
アフリカ・中近東	109	▲1	▲1.2%
中南米	83	▲12	▲12.4%
大洋州	19	▲6	▲22.9%

次に生産、販売の状況についてご説明いたします。

まず、四輪車につきまして、
生産台数は、
半導体不足の解消に伴い、日本、欧州、インドで増加しましたが、
パキスタン等での減産により、全体では前年並みとなりました。

販売台数は、
インド、欧州、日本での増加により、全体でも前年同期を上回りました。



● **軽自動車・登録車ともに主力モデルの新型車を投入**

- ・11月に新型スペーシア、12月に新型スイフトの販売を開始
- ・両モデルとも受注は好調。特にスペーシアはスペーシアカスタム、スイフトは上級グレードの販売が好調で、ミックス改善に貢献



新型スペーシア、スペーシアカスタム



新型スイフト

● **価格改定**

- ・今期より、仕様変更に合わせて価格改定を実施
- ・仕様・装備の充実によるコストアップ分に加え、原材料価格高騰分を反映

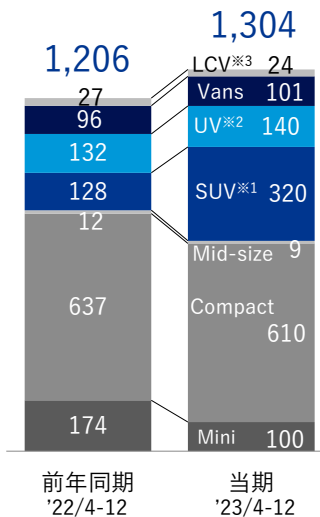
日本の販売実績につきましては、
8月以降、半導体不足が解消したこと等により、
販売台数が増加しました。

当第3四半期には、スペーシアおよびスイフトと、
軽、登録車それぞれの主力モデルをフルモデルチェンジしました。
両モデルとも、受注を好調に頂いていることに加え、
上級グレードの販売が好調であり、ミックス改善に貢献しています。

また、今期より、仕様変更に合わせて、
仕様・装備の充実によるコストアップ分に加え、
原材料価格高騰分を反映した価格改定を実施しています。

販売実績

+98千台 (+8.1%)
(千台)



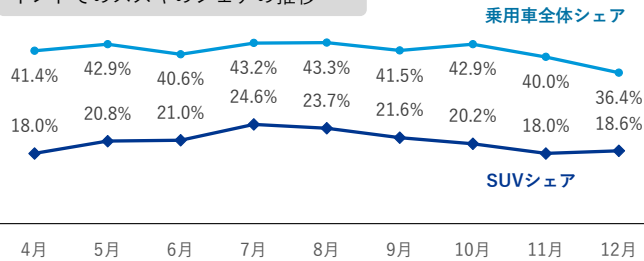
● 当期のインド販売

- ・スズキは、4-12月期として過去最高の出荷台数、売上高、営業利益
- ・SUVおよびUVの拡大によりミックスも改善
- ・なお、インド全体市場は2023年暦年で世界第3位の規模

● SUVの販売状況

- ・SUVモデルを積極的に投入し、乗用車全体シェア拡大を図る
- ・主力のプレッツァは、全SUVモデルのなかで販売台数1位（2023年暦年）

インドでのスズキのシェアの推移



プレッツァ

注、左側グラフは商用車(LCV)を含む卸販売実績、OEMは除く

※1 SUVは、Brezza, Fronx, Grand Vitara, Jimny の4モデル (前年同期はBrezza, Grand Vitara, S-Crossの3モデル)

※2 UV=Utility Vehicles ※3 LCV=Light Commercial Vehicles

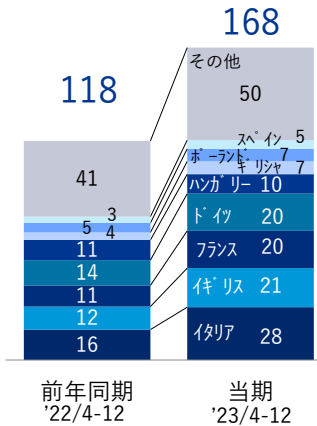
© Suzuki Motor Corporation, 2024. All rights reserved. 11 / 35

インドの販売実績につきましては、
4-12月期として過去最高の出荷台数となり、
売上高・営業利益とも、過去最高となりました。
また、SUVおよびUVの拡大によりミックスも改善しました。
なお、ご存じの通り、インド全体市場としては、
2023年暦年で販売台数508万台となり、
前年に続き世界第3位の規模となりました。

SUVの販売状況につきましては、
昨年からSUVモデルを積極的に投入し、
乗用車全体のシェアアップを図っています。
主力のプレッツァは、2023年暦年において、
全SUVモデルの中で販売台数1位を記録しました。

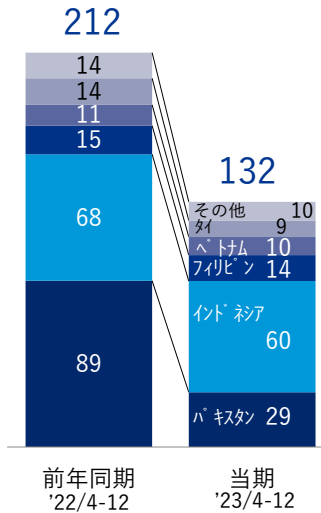
欧州

+50千台 (+42.6%)
(千台)



アジア (インド除く)

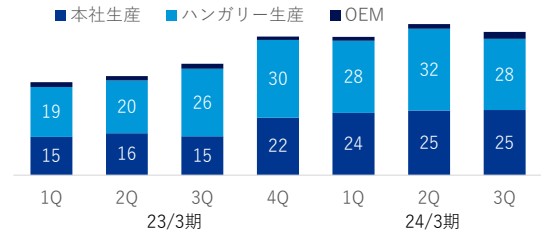
▲80千台 (▲37.8%)
(千台)



● 欧州トピックス

・日本生産車の供給が回復

生産拠点別販売台数 (千台)



・新型スイフトを春頃より各国へ順次投入



続いて、欧州の販売状況です。

前年同期は、

- ・半導体不足 および船舶不足による供給面の問題がありました。

当期は、

- ・日本 およびハンガリーでの生産が回復したこと、
- ・船舶を確保していることにより、販売が拡大しました。

なお、新型スイフトを、今年春頃より各国へ順次投入し、更なる販売拡大を図ってまいります。

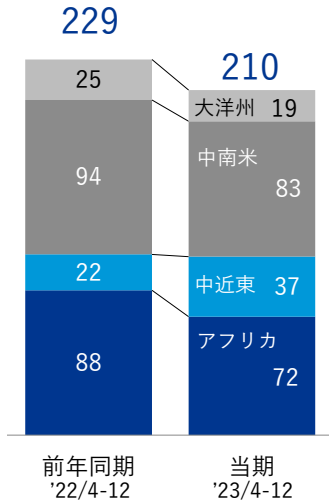
インド以外のアジアにつきましては、

特に、パキスタンにおいて、政府の外貨不足を背景に、部品の輸入が制限され減産となったことで、販売も減少しました。

販売実績

▲19千台 (▲8.1%)

(千台)



● **当期の販売**

(千台)	台数	前年同期比	
アフリカ・中近東	109	▲1	▲1.2%
アフリカ	72	▲16	▲18.2%
南アフリカ	37	▲0	▲0.8%
エジプト	4	▲7	▲60.9%
エチオピア	3	▲9	▲77.4%
中近東	37	+15	+67.2%
サウジアラビア	21	+13	+149.8%
大洋州	19	▲6	▲22.9%
中南米	83	▲12	▲12.4%
メキシコ	28	▲4	▲11.2%
チリ	13	▲1	▲9.7%

● **中近東トピックス**

- ・特にサウジアラビアでは経済発展を背景に販売好調
- ・主に地理的に近いインド製の車両を販売
- ・インド出身者が多く、スズキのブランドイメージが高いことを活かし今後も拡販



© Suzuki Motor Corporation, 2024. All rights reserved. 13 / 35

その他地域の販売につきましては、アフリカ、中南米、大洋州で、販売台数が減少しました。

アフリカは、一部の国で外貨規制により輸入が出来ず、販売が減少しました。

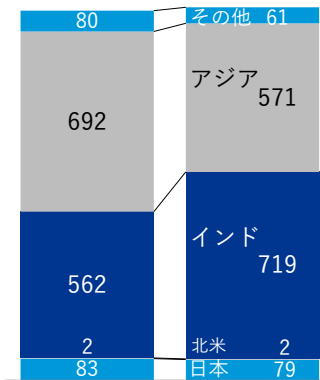
一方、中近東は、特にサウジアラビアにおいて、好調な経済成長を背景に、販売台数は前年比2.5倍となり、シェアは暦年で前年1.7%から3.2%へ拡大しました。

主な販売モデルは、デザイア等のインド製モデルであり、インド出身者が多くスズキのブランドイメージが良いことを活かし、販売拡大に取り組んでいきます。

生産実績

+13千台 (+0.9%)
(千台)

1,419 1,432

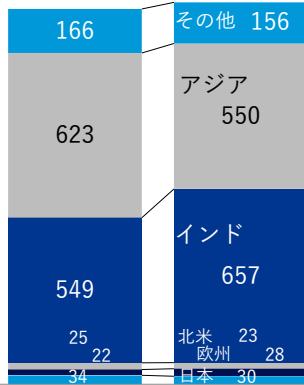


前年同期 '22/4-12 当期 '23/4-12

販売実績

+25千台 (+1.7%)
(千台)

1,420 1,445



前年同期 '22/4-12 当期 '23/4-12

● 当期の世界販売

(千台)	台数	前年同期比	
世界販売	1,445	+25	+1.7%
日本	30	▲3	▲10.3%
欧州	28	+6	+27.9%
北米	23	▲2	▲9.7%
インド	657	+108	+19.7%
アジア (除インド)	550	▲73	▲11.7%
中国	316	▲20	▲6.1%
フィリピン	125	▲26	▲17.3%
その他	109	▲26	▲19.5%
その他	156	▲11	▲6.4%
中南米	140	▲9	▲6.2%
その他	15	▲1	▲8.3%

© Suzuki Motor Corporation, 2024. All rights reserved. 14 / 35

二輪車につきましては、

- ・中国およびアセアン市場では減速がみられましたが、
- ・インドで拡大したことにより、

全体では、生産・販売ともに前年を上回りました。

北米の販売状況

■ 末端販売の状況

全体市場について

- ・ 小型・中型モデルは、金利上昇による中間層の購買意欲低下に伴い前年割れ
- ・ 大型モデルは、景気に左右されにくく、前年並で推移

全体市場は若干縮小するなか、スズキは堅調な販売を継続

■ 卸販売の状況

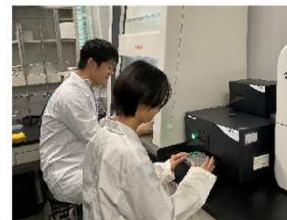
- ・ ボートビルダー・販売店で在庫調整を実施
- ・ 全体市場、スズキともに卸販売は縮小

クリーンオーシャンプロジェクト



マイクロプラスチック回収

静岡大学とタンパク質のプラスチック吸着特性を活かしたマイクロプラスチックの判別技術に関する共同研究契約を締結



梱包脱プラ活動

2020年からの累計削減量56トン



世界清掃活動

2010年からの累計参加者約17,000人



ここで、マリン事業につきまして、2点ご説明したいと思います。

まず、北米の販売状況ですが、

末端販売について、全体市場の状況は、

- ・ 小型・中型モデルは、金利上昇による中間層の購買意欲低下に伴い前年割れとなりました。
- ・ 大型モデルは、景気に左右されにくく、前年並で推移しました。

結果、

全体市場は若干縮小するなか、スズキは堅調な販売を継続することができました。

卸販売の状況ですが、

- ・ ボートビルダー・販売店で在庫調整を実施している状況です。
- ・ 全体市場、およびスズキともに縮小しました。

次に、「クリーンオーシャンプロジェクト」をご紹介します。

マリン事業では、

- ・ 海洋マイクロプラスチックの回収
- ・ プラスチック梱包資材の削減
- ・ 世界清掃活動

などを通じて、環境問題に取り組んでいます。

通期業績予想 | 総括

(億円)	当期 ('23/4-'24/3)	前期 ('22/4-'23/3)	増 減		補足	前回予想(11月時点)との比較		
			増	減		前回予想	増減	
連結 業績	売上高	52,000	46,416	+5,584	+12.0%	過去最高 3期連続増収	52,000	-
	営業利益 (利益率)	4,300 (8.3%)	3,506 (7.6%)	+794	+22.7%	過去最高 2期連続増益	4,300 (8.3%)	-
	経常利益 (利益率)	4,500 (8.7%)	3,828 (8.2%)	+672	+17.6%	過去最高 4期連続増益	4,500 (8.7%)	-
	当期純利益 [※] (利益率)	2,400 (4.6%)	2,211 (4.8%)	+189	+8.5%	過去最高 4期連続増益	2,400 (4.6%)	-
為替 レート	米ドル	143円	136円	+7円	+5.5%		141円	+2円
	ユーロ	156円	141円	+15円	+10.4%		152円	+4円
	インドルピー	1.74円	1.70円	+0.04円	+2.4%		1.72円	+0.02円
世界 販売	四輪車	3,143千台	3,000千台	+142千台	+4.7%		3,188千台	▲46千台
	二輪車	1,899千台	1,867千台	+32千台	+1.7%		1,880千台	+20千台
配当	一株当り 年間配当金	110円	100円	+10円	-	過去最高	100円以上 (期初予想)	-

※ 当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益

© Suzuki Motor Corporation, 2024. All rights reserved. 16 / 35

通期業績予想についてご説明いたします。

- ・売上高は5兆2,000億円
 - ・営業利益は4,300億円
- と、前回は据え置きます。

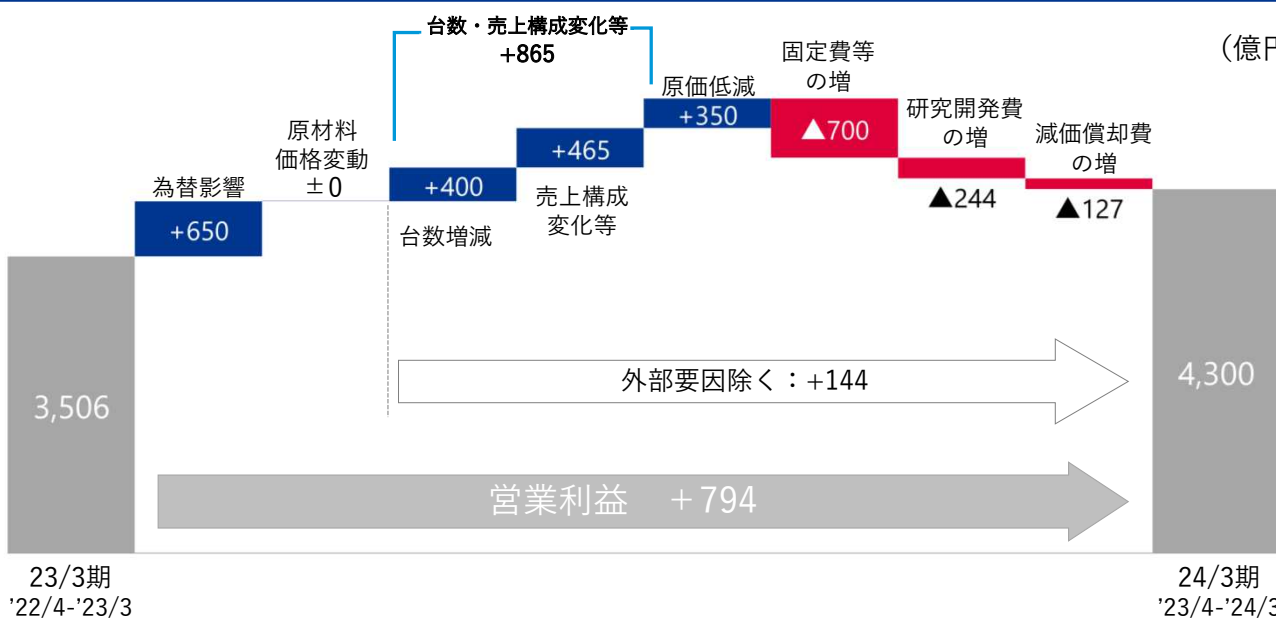
なお、為替前提や台数見通しについて、
経営環境の変化を踏まえ、見直しを行いました。

- ・為替前提は、前回予想に比べ円安方向に見直しました。
- ・台数見通しは、実績、および今後の見通しを反映し、
四輪車・二輪車ともに見直しました。

配当につきましては、一株当り年間110円を予定しています。
これは前期に比べ10円の増配となり、過去最高となります。

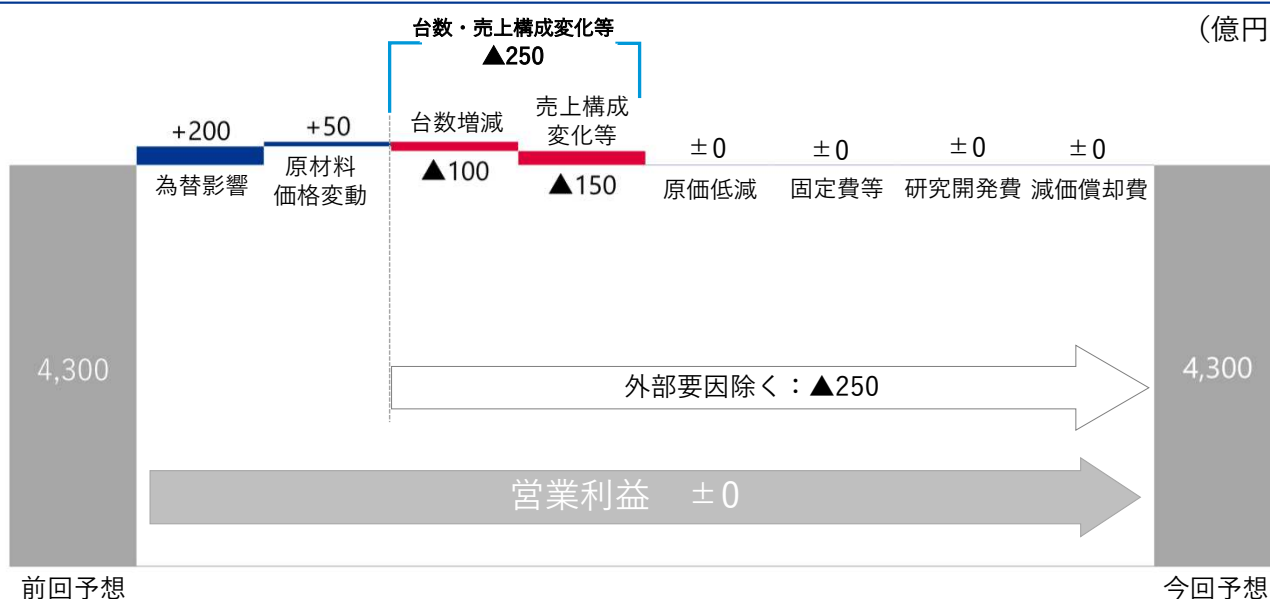
通期業績予想 | 営業利益増減要因・対 前期実績

(億円)



前期に対する 営業利益の増減要因の内訳は、ご覧の通りとなります。

(億円)



前回予想からの増減について、ご説明いたします。

外部環境の変化については、

- ・ 為替影響は、200億円
 - ・ 原材料価格変動は、インドでの値下がりを反映し、50億円
- 合計で、250億円の増益を見込んでいます。

外部環境以外の要因につきましては、

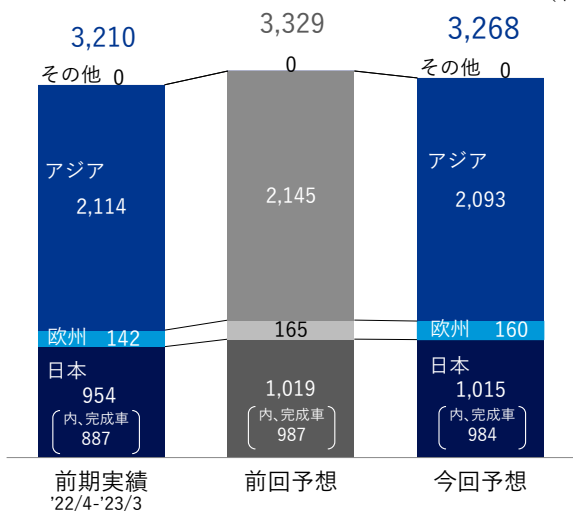
- ・ 台数増減は、主にインドでの販売状況を踏まえ、100億円
 - ・ 売上構成変化等は、150億円
- の減益を見込んでいます。

以上、最新の経営状況を反映させた結果、営業利益は前回予想4,300億円を据え置きました。

生産台数

3,268千台 前期比 +58千台 (+1.8%)
 前回予想比 ▲61千台 (▲1.8%)

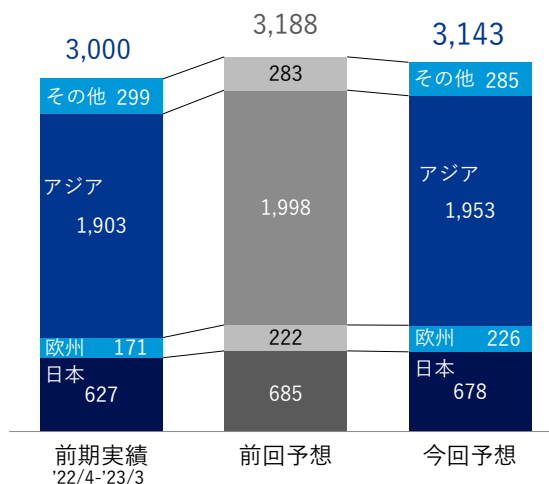
(千台)



販売台数

3,143千台 前期比 +142千台 (+4.7%)
 前回予想比 ▲46千台 (▲1.4%)

(千台)



© Suzuki Motor Corporation, 2024. All rights reserved.

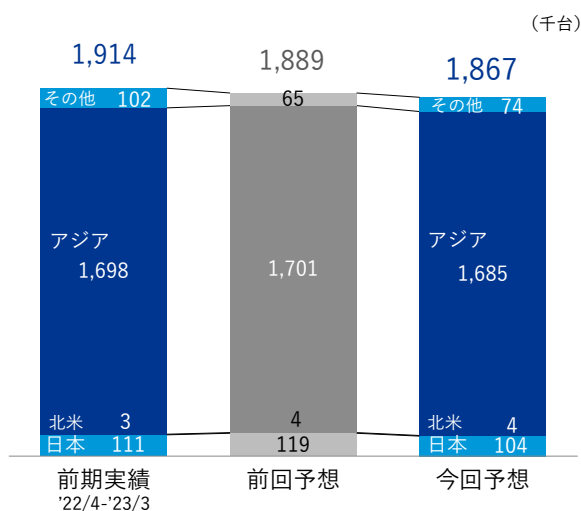
台数の見直しについてご説明いたします。

四輪車につきましては、

- ・生産台数につきましては、世界生産で61千台
 - ・販売台数につきましては、世界販売で46千台
- それぞれ下方修正しました。

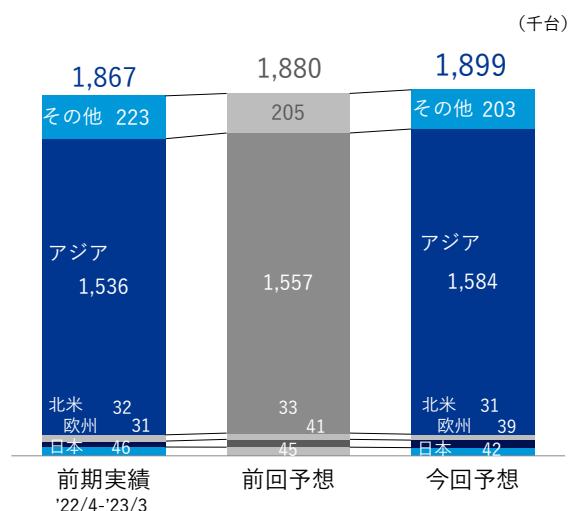
生産台数

1,867千台 前期比 ▲47千台 (▲2.5%)
 前回予想比 ▲22千台 (▲1.2%)



販売台数

1,899千台 前期比 +32千台 (+1.7%)
 前回予想比 +20千台 (+1.0%)



© Suzuki Motor Corporation, 2024. All rights reserved.

続いて、二輪車の状況です。

- (右側のグラフ)
 販売台数につきましては、
 インドの上方修正等により、世界販売で20千台上方修正しました。
- (左側のグラフ)
 生産台数につきましては、
 在庫状況を踏まえ一部の拠点で生産調整を行い、
 世界生産で22千台下方修正しました。

・組織の改定について、2023年12月にリリース

技術統括
(2024年1月～)

四輪・二輪・マリンの各技術部門に横ぐしを刺す

グローバル営業統括
(2024年4月～)

四輪・二輪・マリン・部品の各営業部門に横ぐしを刺す
国内・海外四輪事業の一体感を強化

- ・それぞれの取組みや課題解決策の横展開を強化
- ・グローバルでの相乗効果や効率のよい経営を実現
- ・カーボンニュートラルなどの環境変化に対応

2030年度に向けた成長戦略の実行を加速

最後に、トピックスとして、先日リリースした組織改定について、ご説明したいと思います。

今回の組織改定は、社長を中心としたこれからの戦略実行をより加速するものであり、技術統括とグローバル営業統括を置くことで、グローバルでの相乗効果や効率のよい経営を実現し、経営環境の変化に対応していきます。

以上で、第3四半期決算の説明を終わらせていただきます。

なお、資料の次ページ以降に、補足資料として、売上高の内訳等のデータを掲載していますので、併せてご覧いただければと思います。

ご清聴ありがとうございました。

補足資料

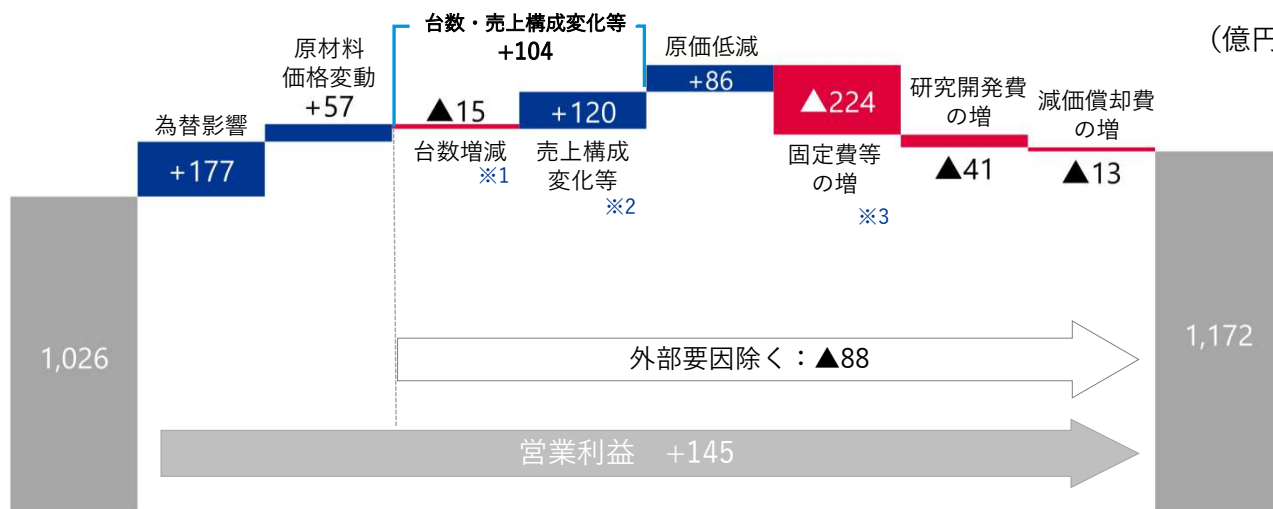
2024年3月期 第3四半期決算 | 売上高の状況



(億円)	四輪			二輪			マリン			その他			合計			増減内訳	
	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	為替影響 台数増減	
国内計	8,902	8,459	+443	152	177	▲25	26	27	▲1	85	90	▲5	9,165	8,753	+412	+395	
自 社	8,151	7,761	+390	152	177	▲25	26	27	▲1	85	90	▲5	8,413	8,054	+359		
O E M	751	699	+53										751	699	+53		
海外計	25,969	22,034	+3,935	2,524	2,350	+174	817	991	▲174				29,310	25,375	+3,935	+885	+1,140
欧 州	4,528	2,776	+1,751	329	282	+47	130	187	▲57				4,987	3,246	+1,741	+471	+1,396
北 米	4	5	▲1	357	380	▲22	428	571	▲143				789	956	▲166	+35	▲74
アジア	17,317	15,348	+1,969	1,348	1,249	+98	107	80	+27				18,772	16,677	+2,095	+146	+245
インド	15,249	12,482	+2,766	867	663	+204	6	6	+1				16,122	13,151	+2,971	+184	+1,052
々以外	2,068	2,865	▲797	481	587	▲106	101	74	+27				2,650	3,526	▲876	▲39	▲807
その他	4,119	3,905	+214	490	439	+52	152	153	▲1				4,762	4,497	+265	+233	▲427
総合計	34,871	30,493	+4,377	2,676	2,528	+149	843	1,018	▲175	85	90	▲5	38,475	34,128	+4,347	+885	+1,535
内、為替換算影響			+750			+99			+36								+885

注、当期…2023年4～12月期、前期…2022年4～12月期、北米…米国・カナダ、北米四輪車…部品用品等

(億円)



前年同期
'22/10-12

※1 台数増減影響 主な内訳
 ・マルチスズキ + 54億円
 ・当社単独 + 1億円

※2 売上構成変化等 主な内訳
 ・当社単独 + 218億円
 ・マルチスズキ + 70億円

※3 固定費等の増 主な内訳
 ・営業政策費 ▲ 55億円
 ・労務費 ▲ 39億円
 ・品質関連費用 ▲ 19億円

当期
'23/10-12

2024年3月期 第3四半期決算 | 所在地別業績、営業利益増減要因



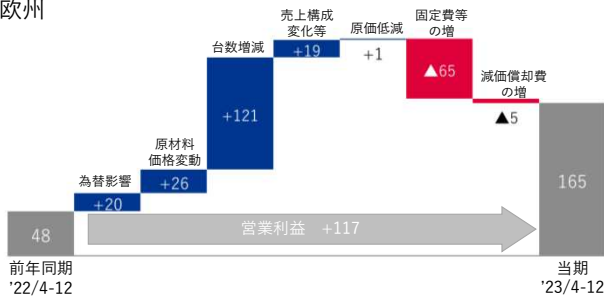
単位：億円

	'23/4-12			'23/10-12		
	売上高	営業利益	利益率	売上高	営業利益	利益率
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
日本	20,467 +15%	1,950 +24%	9.5%	7,042 +10%	724 +22%	10.3%
欧州	6,720 +54%	165 +241%	2.5%	2,304 +40%	27 +90%	1.2%
アジア	21,307 +12%	1,815 +70%	8.5%	7,079 +8%	576 +38%	8.1%
その他	2,946 ▲1%	95 ▲48%	3.2%	966 +3%	21 ▲61%	2.2%
連結計	38,475 +13%	3,466 +30%	9.0%	12,831 +7%	1,172 +14%	9.1%

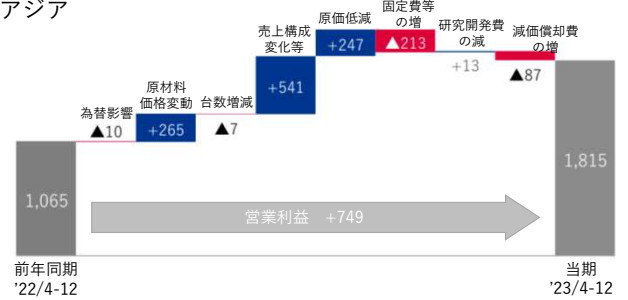
日本



欧州



アジア



© Suzuki Motor Corporation, 2024. All rights reserved.

2024年3月期 第3四半期決算 | マルチ・スズキ・インドシア社の業績



	ルピー建 (億ルピー) ※1			円換算額 (億円)			
	当期	前年同期※4	増減	当期	前年同期	増減	
連 結 業 績	売上高	9,823	8,168	+ 1,654	17,092	14,050	+ 3,042
	営業利益※2 (利益率)	935 (9.5%)	559 (6.8%)	+ 375	1,626 (9.5%)	962 (6.8%)	+ 664
	税前利益 (利益率)	1,232 (12.5%)	710 (8.7%)	+ 522	2,143 (12.5%)	1,221 (8.7%)	+ 922
	税後利益 (利益率)	954 (9.7%)	558 (6.8%)	+ 396	1,659 (9.7%)	959 (6.8%)	+ 700
	為替レート	1.74円	1.72円	+ 0.02円			
卸 販 売	国内販売※3	1,347千台	1,257千台	+ 90千台			
	輸出※3	204千台	195千台	+ 10千台			
	合計	1,551千台	1,451千台	+ 100千台			

注. マルチ・スズキ・インドシア社は I n d A S (インド版 I F R S) に基づき会計処理をしており、本数値はあくまでも参考値

※1 ルピー建は、1月31日付でマルチ・スズキ・インドシア社が発表した連結業績値

※2 営業利益は次式により算出 営業利益 = Sales of product + Other operating revenues - Total Expenses + Finance costs

※3 国内販売および輸出は O E M を含む

※4 前年同期の業績値は、当期との比較のため、前年同期初より SMG を連結した前提で再計算した数値

© Suzuki Motor Corporation, 2024. All rights reserved.

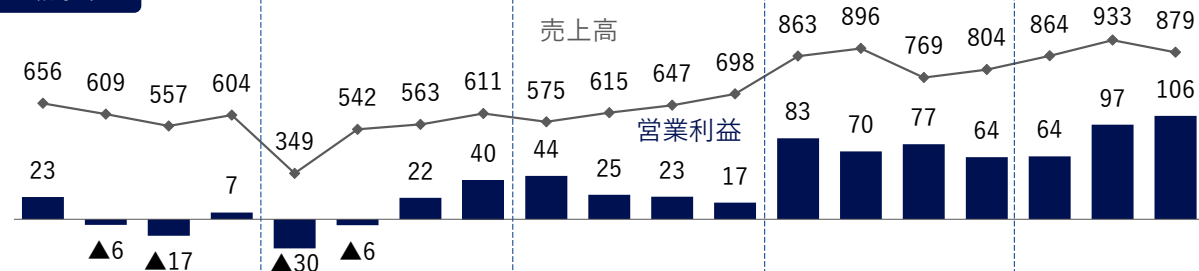
26 / 35

二輪事業、マリン事業 | 四半期毎の業績

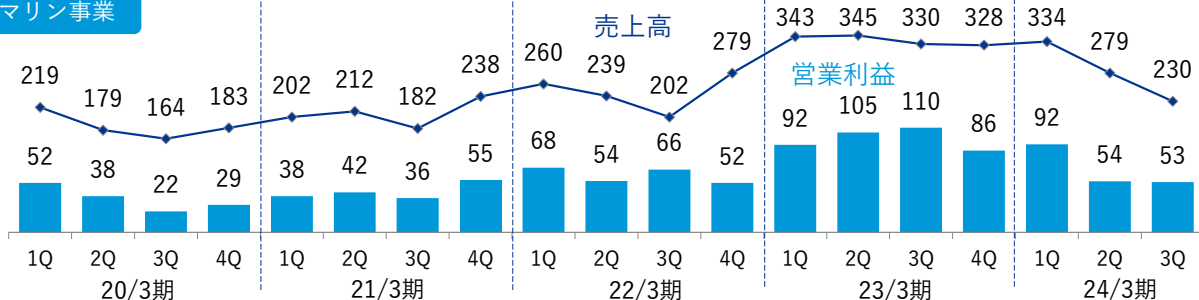


(億円)

二輪事業



マリン事業



2024年3月期 第3四半期決算 | 為替レートと為替影響額



	当期 ('23/4-12)	前年同期 ('22/4-12)	前年同期比 増減		営業利益 為替影響	
					感応度 ^{※2}	影響額
ユーロ	155円	141円	+15円	+10.4%	+19億円	+202億円
メキシコペソ	8.23円	6.84円	+1.39円	+20.3%	+7億円	+133億円
ポンド	180円	164円	+16円	+9.5%	+7億円	+67億円
米ドル	143円	137円	+7円	+5.0%	+11億円	+53億円
インドルピー	1.74円	1.72円	+0.02円	+1.2%	+28億円	+32億円
南アフリカランド	7.67円	8.16円	▲0.49円	▲6.0%	+4億円	▲26億円
パキスタンルピー	0.50円	0.64円	▲0.14円	▲21.9%	+2億円	▲46億円
その他 ^{※1}	-	-	-	-	+11億円	+43億円
営業利益為替影響額 合計					+89億円	+458億円

※1 その他…影響額+43億円のうち、ポーランドズロチ+22億円、インドネシアルピア+7億円 ほか

※2 感応度…各通貨のレートが前年同期のレートから1% 円安方向に動いた際の営業利益影響額

2024年3月期 第3四半期決算 | 設備投資等



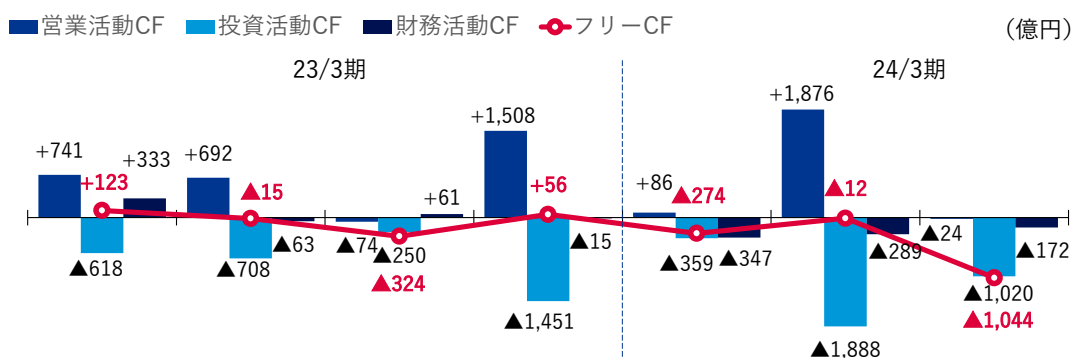
	当期 ('23/4-12)	前年同期 ('22/4-12)	増 減
当社単独	424億円	491億円	▲67億円
子会社	1,697億円	1,470億円	+228億円
(内、インド [※])	(1,270億円)	(1,144億円)	(+126億円)
設備投資	2,122億円	1,961億円	+161億円
減価償却費	1,422億円	1,264億円	+157億円
研究開発費	1,591億円	1,420億円	+171億円

※インド：マルチ・スズキ社（グジャラートを含む）、SMIPL社、TDSG社、SRDI社、Sデジタル 5社の合計

	当第3四半期末 ('23/12末)	前年同期末 ('22/12末)		前期末比較 ('23/3末)	
			増減		増減
有利子負債残高	7,790億円	7,542億円	+248億円	7,638億円	+151億円
連結子会社数	118社	120社	▲2社	120社	▲2社
持分法適用関連会社数	31社	32社	▲1社	32社	▲1社
従業員数	72,341人	70,349人	+1,992人	70,012人	+2,329人

© Suzuki Motor Corporation, 2024. All rights reserved. 29 / 35

2024年3月期 第3四半期決算 | 連結キャッシュフロー四半期推移



	23/3期				24/3期		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
フリーCF	+123	▲15	▲324	+56	▲274	▲12	▲1,044
財務CF	+333	▲63	+61	▲15	▲347	▲289	▲172
(内、配当金支払額 ^{※1})	(▲225)	(▲136)	(▲243)	(+2)	(▲245)	(▲203)	(▲268)
キャッシュ残高	9,215	9,171	8,740	8,821	8,499	8,230	6,886
有利子負債	7,331	7,441	7,542	7,638	7,640	7,672	7,790
ネットキャッシュ	1,884	1,730	1,198	1,183	859	558	▲904
(月商比 ^{※2})	(0.5ヵ月)	(0.4ヵ月)	(0.3ヵ月)	(0.3ヵ月)	(0.2ヵ月)	(0.1ヵ月)	(▲0.2ヵ月)

※1 非支配株主への配当金の支払額を含む。 ※2 月商比は、各期の通期売上高(24/3期は予想値)の平均月商をもとに算出

通期業績予想 | 為替レートと為替影響額



	通期予想			前期実績	前期実績比			
		今回 1-3月前提	前回 通期予想		増減		営業利益 為替影響	
							感応度 ^{※2}	影響額
ユーロ	156円	156円	152円	141円	+15円	+10.4%	+25億円	+258億円
メキシコペソ	8.28円	8.41円	8.10円	6.91円	+1.37円	+19.8%	+9億円	+182億円
ポンド	180円	182円	175円	163円	+17円	+10.5%	+8億円	+86億円
インドルピー	1.74円	1.73円	1.72円	1.70円	+0.04円	+2.4%	+36億円	+84億円
米ドル	143円	143円	141円	136円	+7円	+5.5%	+13億円	+71億円
南アフリカランド	7.66円	7.61円	7.48円	7.99円	▲0.34円	▲4.2%	+5億円	▲21億円
パキスタンルピー	0.51円	0.51円	0.49円	0.61円	▲0.11円	▲17.2%	+2億円	▲42億円
その他 ^{※1}	-	-	-	-	-	-	+14億円	+32億円
営業利益為替影響額 合計							+113億円	+650億円

※1 その他…影響額+32億円のうち、ポーランドズロチ+34億円 ほか

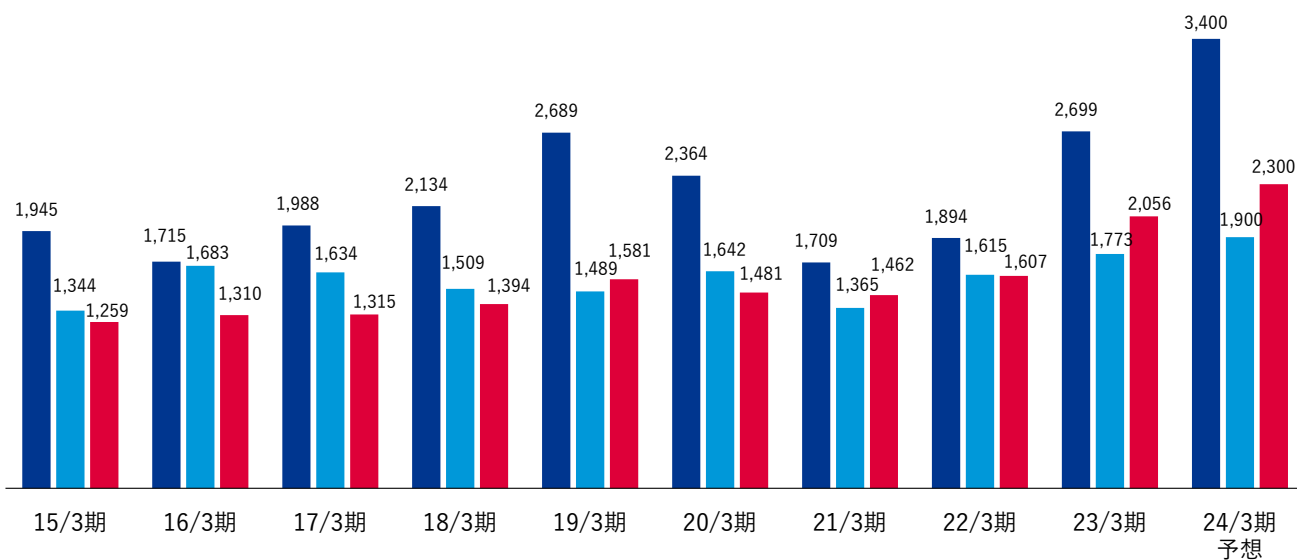
※2 感応度…各通貨のレートが前期実績から 1% 円安方向に動いた際の営業利益影響額

通期業績予想 | 設備投資・減価償却費・研究開発費の推移



(億円)

■ 設備投資 ■ 減価償却費 ■ 研究開発費

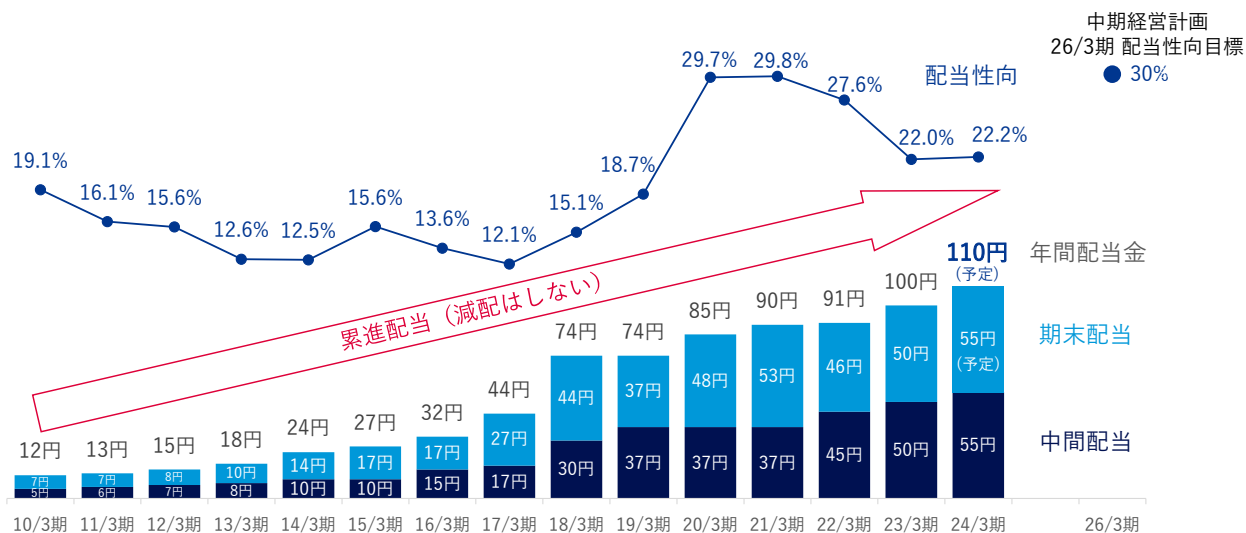


© Suzuki Motor Corporation, 2024. All rights reserved. 32 / 35

株主還元 | 一株当たり配当金



配当 **年間配当(予定) 110円** (前期比10円増配) : 過去最高額
自己株式 当上期に、200億円 (3,768千株) を取得 (還元性向8.3%相当)





(参考) 新型二輪車「GSX-8R」

- ライダーの年齢やスキルを問わず、街中からワインディング、サーキットまで多様なライディングを楽しめるスポーツバイク
- 各国で高い評価を得ているGSX-8Sをベースに、スポーツライディングに適したカウリングやセパレートハンドルを装備
- 2024年1月より、欧州・北米・日本など全世界で順次販売を開始



将来予想に関する注意事項

- このプレゼンテーション資料に記載した将来予想は、現時点で入手可能な情報及び仮定に基づき当社が判断したもので、リスクや不確実性を含んでおり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。
- 実際には、様々な要因の変化により大きく異なることがありえますことをご承知おき下さい。
- 実際の業績に影響を及ぼす可能性がある要因には、主要市場における経済情勢及び需要の動向、為替相場の変動などが含まれます。